



南ぬ風

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌

ふえーぬかし

Vol.28
2013.7~9
夏号



ワクワク工作室

身近な素材を使ったクラフトや工作、昔ながらの手作りおもちゃなどを紹介します。

作り方



① 箱の底を切り取る。



② 箱の口をハサミで切り、折り込む。



③ テープかホッチキスでとめる。



④ 底の部分を切って尾ビレの形を作る。



⑤ 胸ビレ2つ、背ビレと尻ビレを1つずつ作る。



⑥ 切れ込みを入れ、胸ビレを差し込んで内側からテープでとめる。



⑦ 胸ビレと同じように、背ビレと尻ビレをとめ、尾ビレをホッチキスでとめる。



⑧ 目をつけて、できあがり。

牛乳パックのハコフグ

材料 洗って乾燥させた牛乳パック、ハサミ、マジック、ホッチキス、セロテープ、のり

ハコフグの仲間ってどんな生き物？



写真：ミナミハコフグ

ミナミハコフグは、房総半島以南、インド・西太平洋に分布。全長40cmまで成長する。体はかたい骨板で覆われ、箱型になる。幼魚のうちは写真のような黒点斑を持つが、老成魚になると暗褐色に変化する。皮膚には粘液毒を持つ。

沖縄美ら島財団の工作教室に参加してみませんか？

当財団では主にお子様を対象として「美ら海・美ら島工作室」や「クラフト作り」等を開催しています。参加ご希望の方は下記ホームページでイベント情報をチェックしてみてください。

美ら島研究センター
<http://okichura.jp/ocrc/event/kousakushitu/>

沖縄県立 名護青少年の家
<http://www.opnyc.jp/>

海洋博公園
<http://oki-park.jp/index2.html>

一般財団法人 沖縄美ら島財団 広報誌

編集・発行 /



2013年7月発行

季刊誌 南ぬ風 夏号 vol.28 2013.7~9

〒905-0206 沖縄県国頭郡本部町字石川888 TEL.0980-48-3645 FAX.0980-48-3900

一般財団法人 沖縄美ら島財団公式サイト《 <http://okichura.jp/> 》 国営沖縄記念公園公式サイト《 <http://oki-park.jp/> 》



海人丸とは

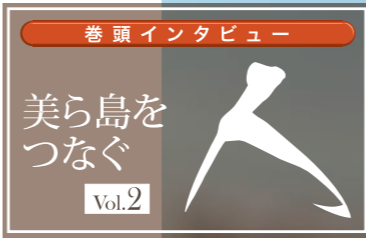
沖縄の伝統的な木造船サバニを双胴船のように使った航海カヌー。海人丸1号では、2005年に沖縄から愛知万博会場(約2000Km/56日間)への人力航海成功。2009年、海人丸『中国航海プロジェクト』が始動。荒木さんは名桜大学で非常勤講師としてクルーを育成すると共に、主に小学生に海洋スポーツを通して人間力指導を始めている。

海人丸1号のきつかけは2003年にホクレア号船長のナイノア・トンブソンらとサバニレースに出場したときです。沖縄の古典音楽「上り口説」のように、北極星を頼りに人力で九州まで渡った歴史を実際にやりたいと思いました。「ホクレアのようにサバニを二隻繋げばいいよ!」とナイノアからも背中を押されて、糸満の船大工である大城清さんと海人丸1号を作り仲間と大航海に挑戦しました。

1998年5月、アウトリガーカヌー・パドルボード世界最高峰「ハワイモロカイ」オアフ海峡横断レースに日本人初完走して以来、ウオーターマンとしての道を歩んできた荒木さん。2004年からは沖縄を拠点としている。モロカイのレースに毎年挑戦しながら、2005年は海人丸による沖縄から愛知への航海、2007年はホクレア号によるハワイから日本への航海も成功。海洋文化への思いや、現在取り組んでいる海人丸プロジェクト、次世代の育成についてお話を聞いた。



写真左: ULISUP(空気型スタンドアップパドルボード)は、ボードの上に立ち、パドルを使って漕いで進む。写真はフィンを上にした裏返し状態で、実際にはフィンを海中につけて使用。初心者は安全に立ち漕ぎが、上級者は波のある場所です。パドルを使ったサーフィンが楽しめる



オーシャンアスリート

荒木汰久治

ARAKI TAKUJI

1974年 熊本県生まれ。1996年から全日本ライフセービング選手権サーフスキー部門3連覇。2007年、ハワイ古代航海カヌー「ホクレア号」によるハワイ日本の航海に、日本人クルーとして乗船。2012年 SUPで奄美・沖縄列島縦断に成功。現在は沖縄本島北部東海岸で、ULISUP(空気型スタンドアップパドルボード)のデザイン開発、プライベートレッスンを開催している。

沖縄には、海でつながる琉球の海洋文化がある。

「沖縄の海洋文化との出会いについて教えてください。」

2004年にサバニレースに参加するために行った座間味島で、一枚の写真に出会ったんです。慶良間海洋文化館で、サバニにサメを引き揚げている写真を見た瞬間、衝撃を受けました。僕はそれまでサバニはスポーツで乗るものだと思っていたけど、本当は違った。思わず「この人誰ですか」と聞いたら、「海人」という答えが返ってきたんです。最初は海人ってという人の名前かと思つて、この写真の人に会いに行こうと思つた(笑)。それから海人文化に入つていったんです。

「翌年は海人丸1号で、沖縄から愛知まで航海されたんですか?」

海人丸1号のきつかけは2003年にホクレア号船長のナイノア・トンブソンらとサバニレースに出場したときです。沖縄の古典音楽「上り口説」のように、北極星を頼りに人力で九州まで渡った歴史を実際にやりたいと思いました。「ホクレアのようにサバニを二隻繋げばいいよ!」とナイノアからも背中を押されて、糸満の船大工である大城清さんと海人丸1号を作り仲間と大航海に挑戦しました。

「2007年にはホクレア号の航海に日本人クルーとして参加された。」

ホクレアに携わった後は人生が変わったと思います。水平線から島を見つけた時は本当に感動しました。それまで、海は島と島とを隔てるものだと思つていましたが、そうじゃなかった。島と島とは、海でつながっていたんです。海人丸1号からホクレアを経験、次世代の子どもたちの為に海人丸2号をつくる使命感が生まれました。そして大城清さんに大型のサバニ船建造をお願いしに行きました。すると清さんが1811年に糸満海人が福州へサバニで漂着した記録があると資料を見せてくれました。「漁に出た二隻のサバニが漂着したのではなく、飛脚船として中国へ渡つたのではないか」という話を聞いた僕は、より一層中国航海へのビジョンが明確化しました。

「ハワイと沖縄の海洋文化は、荒木さんにどんな影響を与えましたか?」

僕は海人丸のクルーを数年で育てようと考えていましたが、実際にはひと世代かかるな、と思えました。実際、ホクレア号でタフだったのは若い世代より60代のベテランクルーです。ずっと揺れている船の上でもリ

アスリートとして、人力による航海や次世代育成に取り組む。

1998年5月、アウトリガーカヌー・パドルボード世界最高峰「ハワイモロカイ」オアフ海峡横断レースに日本人初完走して以来、ウオーターマンとしての道を歩んできた荒木さん。2004年からは沖縄を拠点としている。モロカイのレースに毎年挑戦しながら、2005年は海人丸による沖縄から愛知への航海、2007年はホクレア号によるハワイから日本への航海も成功。海洋文化への思いや、現在取り組んでいる海人丸プロジェクト、次世代の育成についてお話を聞いた。

contents

美ら島をつなぐ人	02	スポットライトの向こう側	12
沖縄のこころ	04	沖縄の大木	13
美ら島生き物日記	05	財団いんふお	14
調査研究	06	美ら島ワクワク工作室	裏表紙
沖縄美ら海水族館の生き物	07		
普及啓発	08		
管理運営	10		

作品タイトル「サバニで魚を捕る漁師を空から伺う海鳥たち。」
沖縄の青い海で、サバニで漁をする人の姿を空から眺め、おこぼれを頂戴しようと群がる海鳥たち。豊かな自然の恵みを表現。



表紙イラストについて
与儀 勝之 Masayuki Yogi
琉球イラストレーション作家 那覇市生まれ。

誌名「南ぬ風(ふえぬかじ)」とは…
南ぬ風は、梅雨明けとともに南から吹き込んでくる強い風のことです。この南の風によって育まれてきた沖縄の自然や文化をさらに「南ぬ風」に載せ全国に発信していきたいと思っています。



美ら島 生き物日記

豊かな命を育む潤い「やんばるの森」

Vol.2



写真・文
白鳥岳朋 (しらとりたけとも)
東京生まれ、沖縄在住の水中&陸上 全天候型カメラマン。
1988年から水中撮影を開始。
主な著書・写真集に『おさかな接近術』(阪急コミュニケーションズ)、『水中を撮る!』(雷鳥社)など。



イタジイ(スダジイ)が優先する森では、イジュやランの仲間が咲き、ヒカゲヘゴなどシダ類が日当りを求めてせめぎ合い、着生植物やコケの仲間が木の幹や岩を覆う

早朝の名護漁協には大きなアカジン、マクブ、イラブチャーターなど、沖縄の高級魚が誇らしげに並ぶ。よく見るとその多くは、国頭村をはじめとするやんばるの海の幸だ。近年、海の豊かさは陸の豊かさにも大きく左右されることが認められている。植物の知識がそれほどなくても、その風景を見れば、どれほど周りの環境に良い影響を与えているか疑う余地はない。

「やんばるの森はいわゆる多雨林。北緯27度付近の亜熱帯にあるんですが、世界の同緯度付近の地域は乾燥した草原や砂漠がほとんど。そういう意味でも希少なんです」とは、沖縄美ら島財団職員のア部篤志さん。こんな話もしてくれた。

「亜熱帯海洋性気候の沖縄は、春から夏は晴れても湿度が高い。秋は台風、冬は曇りがちで小雨の日も多い。特に沖縄本島北部、やんばるの森林地帯では潤っていて、与那覇岳(沖縄本島最高峰)では年間3000mm以上も雨が降るんです。早朝出かけてもらえば、きっと実感できますよ」

夜明け前から山を一望できる場所へ出かけた。なるほど、そこには霧で潤う豊かな命を育む森があった。



沖縄の

こころ

地域の伝統・文化を支える人たち

Vol.2

なかぐすく そん いじゅ ターファークー

中城村・伊集の打花鼓

まるで絵巻からそのまま抜け出したような芸能。一説によると14世紀末、中国から帰化した閩人三十六姓が久米村に伝えたとか。王府時代は、久米村の明倫堂(北京語や外交文書の作成教授などの上級教育を行った教育機関)で、三六九という学芸会の余興として演じられてきたという。1879年のいわゆる琉球処分を機に、久米村で演じられることはなくなったのだが、中城村伊集では旧暦八月十五夜の村あしびのメインの演目となっている。中城村伊集打花鼓保存会の井口善春さんによると、

「久米村に下男奉公していたナーフアヌヤ(屋号)という人が、明治20(1887)年頃に伊集に伝えたといわれています。先輩から耳伝え・口伝えで代々受け継いできたんです。昭和56(1981)年に保存会を結成しまして、昭和60(1985)年に県の無形民俗文化財に指定されました」とのこと。いかにも中国らしいメロディの曲に乗せて、打楽器を鳴らしながらアクティブに踊る。ルーツは中国だろうと推測されるのだが、実は現在、中国と同じような芸能は残っていないのだとか。

「打花鼓保存会は、北京、上海、福州に呼ばれて行ったことがあります。むこうにはほとんど打花鼓のような芸能が残っていないので、非常に珍しがられるし、こんなのが沖縄に残っていたか!と感激もされるんですよ」と井口さん。保存会は村あしびのほか、首里城や各市町村でのイベントなどに出演している。伊集の青年会メンバーに踊りを教えて、大切に継承しているのだが…。

「動きが活発だから、20代半ば頃までの若い人でないと踊り手は務まらない。だいたい行事の2カ月前ぐらいから、週に2〜3回練習しています。課題は、後継者の育成。だけど、打花鼓は、この伊集の人にしか教えられない。他の地域の人には、させられないですよ」



中城村伊集打花鼓保存会 井口善春さん

ミツバチを活用した緑化推進に関する調査

人の暮らしと密接な係わりがあるミツバチ等の生物は、花粉を受粉させる送粉者の役割を果たしていますが、そうした共生関係は、生物多様性と複雑で巧妙な生態系を生み出してきました。沖縄における都市緑化推進に当たっては、ミツバチ等の訪花行動や蜜源植物に関する知識を蓄積し、蜜源植物の適正な確保を図るなど、自然の仕組みや生物の共生関係を踏まえた「生物を活用した循環・共生型の都市緑化」を推進していくことの意義は大きいと考えられます。

そのためには、地域が自ら緑化活動を推進していくよう支援することが不可欠であり、まず、地域主体となる事業者や住民などに緑と地域の生態系、そして人間とミツバチ等との関係性を実感してもらい、緑化に対する興味・関心を深めてもらうための活動や普及促進のための支援を行うことが重要です。

こうした背景を踏まえ、本調査では、都市緑化推進の現状と課題の整理、県内外のミツバチ等を活用した都市緑化等の推進事例調査、ミツバチ飼養の実態及び都市緑化の推進への活用可能性の把握

に関する調査、ミツバチ飼養と緑化に関するアンケート調査、有識者会議等を行いました。その結果をもとにミツバチ等を活用した都市緑化推進の展開方策を企画立案し、蜜源植物を用いた緑化支援ツール案を作成しています。

県内外の事例調査では、全国のミツバチプロジェクトの事例を調べ、地域振興・環境学習・企業の社会貢献など様々な地域主体が連携し、ミツバチ飼養を通して緑化推進活動やまちづくりを進めていることを把握しました。

ミツバチ飼養の実態と活用の可能性を把握する調査では、沖縄県畜産課や有識者、養蜂園へのヒアリングを行い、受粉用ミツバチや県産ハチミツの需要が急増していること、蜜源植物の確保とミツバチに対する理解醸成、沖縄県における蜜源植物の種類や養蜂業の季節性、都市緑化推進の現状等の課題を整理しました。なかでも養蜂園へのヒアリングでは、教育機関と連携しミツバチを題材とした環境学習を行っていること、ゲッターの蜜蝋やオオバギ由来のプロポリスの抗菌作用に注目しているこ

となど興味深い情報が得られました。

教育機関・商工会・観光協会・NPOを対象に実施したアンケート調査では、ミツバチの送粉による結実促進やハチミツ・プロポリスの生産といった役割や養蜂が地域の緑や産業を支えるとの認識が高く、人と緑を結びつけるという認識が低かったこと、都市での養蜂に関する認知度が低かったこと、沖縄産のハチミツの利用は少ないが関心が高いこと等を把握しました。養蜂活動に関する質問では、実施したいという団体が多かった一方で、安全性への懸念事項や、養蜂技術の習得・周辺地域の合意形成・人材確保、活動経費、緑化技術の習得など課題が挙げられました。

これらの調査結果を踏まえ、県内でのプロジェクトの展開方策を検討するために、モデルプロジェクト事業実施に向けた企画案の作成と具体化、蜜源植物を用いた緑化支援ツールの検討、有識者会議（大学教授・養蜂家・沖縄県畜産課らが参加）を行いました。特に、沖縄で有望な蜜源植物（イジユ、オオバギ、センダン、ヒラミレモン、シロバナセンダングサなど）については普及推奨種としてリスト化し、ミツバチ飼養の方法と併せて沖縄の蜜源植物を用いた緑化支援ツールの構成を検討しました。

最終的には、過年度の結果をまとめ、沖縄の蜜源植物を用いた緑化支援ツールの内容の充実を図り、完成させることを目標としています。

(阿部篤志)

種名	学名	科名	特徴
アオクサノリ	<i>Gracilaria tikvahiae</i>	紅毛菜科	赤い海藻、食用・観賞用
アサカサノリ	<i>Gracilaria tikvahiae</i>	紅毛菜科	赤い海藻、食用・観賞用
シロバナセンダングサ	<i>Senecio jacobinae</i>	キク科	白い花、蜜源植物
オオバギ	<i>Senecio jacobinae</i>	キク科	白い花、蜜源植物
イジユ	<i>Senecio jacobinae</i>	キク科	白い花、蜜源植物
ヒラミレモン	<i>Senecio jacobinae</i>	キク科	白い花、蜜源植物

蜜源植物を用いた緑化支援ツール(イメージ)

お詫びと訂正
前号の調査研究ページ(P06)の中で誤りがありました。下記に訂正してお詫び申し上げます。
誤)アオクサノリ→正)アサカサノリ

沖縄 美ら海水族館で 出会える生き物 Vol.1



和名：シラヒゲウニ
科名：ラッパウニ科
学名：*Tripneustes gratilla*
沖縄名：ガチチャ

房総半島以南の浅瀬に生息しているウニです。先端が吸盤になっているたくさんの足(管足)を使って、体中に小石やサンゴの礫、海藻等をくっつけています。このことから英語では「Collector urchin = 収集家のウニ」と呼ばれています。シラヒゲウニは触って刺されることはありませんが、叉棘には弱い毒があるので解体するときには注意が必要です。シラヒゲウニと同じように浅瀬に生息し、体に小石等をくっつけて身を隠しているウニに、マダラウニとラッパウニがありますが、ラッパウニは毒のある叉棘で覆われているので触ると危険です。

シラヒゲウニは、卵巣が食用となることから、乱獲され資源減少が著しく、県内各地で種苗生産や稚ウニの放流、禁漁期間が設けられ資源の維持に取り組まれています。(若井万里子)



中城公園におけるミツバチ飼養巣箱設置 (2012年12月 中城村)



手作りの巣箱と設置看板



花粉を集めるミツバチ

首里城公園開園20周年記念特別展「首里城に魂を！」実施報告



王族を彩る衣裳と琉球人が描いたもの展示

2012年は、首里城公園が開園してちょうど20周年の節目の年にあたりました。それを記念して「首里城に魂を！」と題した特別展を約半年間、実施しました。展示会は4回連続シリーズで、「琉球人が描いたもの」「琉球の漆工芸」「琉球楽器の復元」「王族を飾る衣裳」のテーマ毎に展示替えを行いました。展示した資料は、おもに開園10周年以降に収集した琉球王国時代の絵画や書跡、染織品、漆芸品です。同展で展示する収蔵品69点のカラー図版を収録・解説し、さらにこの10年間の復元模造製作等に関する調査研究の新たな知見を解説として巻末に掲載しました。

シリーズ第1弾「琉球人が描いたもの」では、書家が描いた絵画の他に、琉球王国時代、首里王府の職業の一つであった『絵師』について、絵画や漆器を展示し、紹介しました。絵師は画家とは性質が異なり、工業デザイナーの性質がありました。絵師の製作した図案に基づいて、琉球王国が国をあ

げて生産していた漆器が作られました。シリーズ第2弾「琉球の漆工芸」では、王府の絵師達がデザインした琉球の人々に好まれた図案で、多寿多福のシンボルである「葡萄と栗鼠」や、百花王と呼ばれる牡丹の花々、人里離れた山や川にある楼閣で人が遊ぶ様子がパターン化されている山水楼閣図に飾られた漆器等を展示しました。シリーズ第4弾「王族を飾る衣裳」では、色鮮やかな鳳凰や子どもの成長を願って描かれた稲妻模様等、琉球の衣裳(着物)にある紅型の図案までも絵師の筆によるものということも紹介できました。

また、この特別展では「沖縄美ら島財団(以下、当財団)」の文化財の保存や復元への取り組みについても、解説パネルの他、実物展示を行いながら紹介しました。開園から20年の間に当財団は、琉球王国崩壊や沖縄戦によって散逸してしまった文化財を地道に収集してきました。文化財の収集を行い、琉球王国時代に製作され

た様々な美術工芸品は、当時の技術を色濃く残しています。当財団は各方面の協力を得て、復元模造製作事業にも着手しました。例えば尾張徳川家に伝来する琉球楽器や徳川家康の遺品である「朱漆花鳥七宝緊密陀絵沈金御供飯」は、透過X線撮影などの科学調査を駆使して復元模造製作を行いました。御供飯は、調査データの分析によって、木地には針葉樹が使用され、ドーム状の蓋は木をテーパー状にして巻き上げた曲げ輪の技術で製作されていることがわかりました。6年の歳月をかけて調査研究をし、復元模造が完成。お披露目できたことも20周年を記念する目玉の一つとなり、来園者にも楽しんでいただけたことがアンケートの結果から知ることができました。

今後も地道に調査研究を進め、首里城ならではの企画展示を心がけ、首里城や琉球王国の歴史について普及啓発を継続してまいります。

(久場まゆみ)

御城物語 Vol.1

うぐしくものがたり

かつて、首里の人々が「御城うぐしく」と呼び、敬愛のまなざしで見上げた首里城。首里城とその周辺に関するトリビアを語る歴史エッセイ。

「首里城正殿にリスがいるって知っていましたか？」

華麗な王朝文化の中心だった琉球王国の象徴、首里城で国王の玉座にリスがいることをご存知でしょうか？リスがいるといっても彫刻で彫られたリスなのですが、一緒にブドウも彫刻されています。沖繩では、古くからブドウの栽培もしていませんし、リスも生息して

いないので、なぜリスとブドウの模様が彫られているのか、意外な感じがします。首里城正殿二階の中央部にある御差床という床よりも高く作られた王様の玉座の下(羽目板)に、紫色のブドウの実が成った蔓の間で、リスが遊んでいる模様が描かれています。

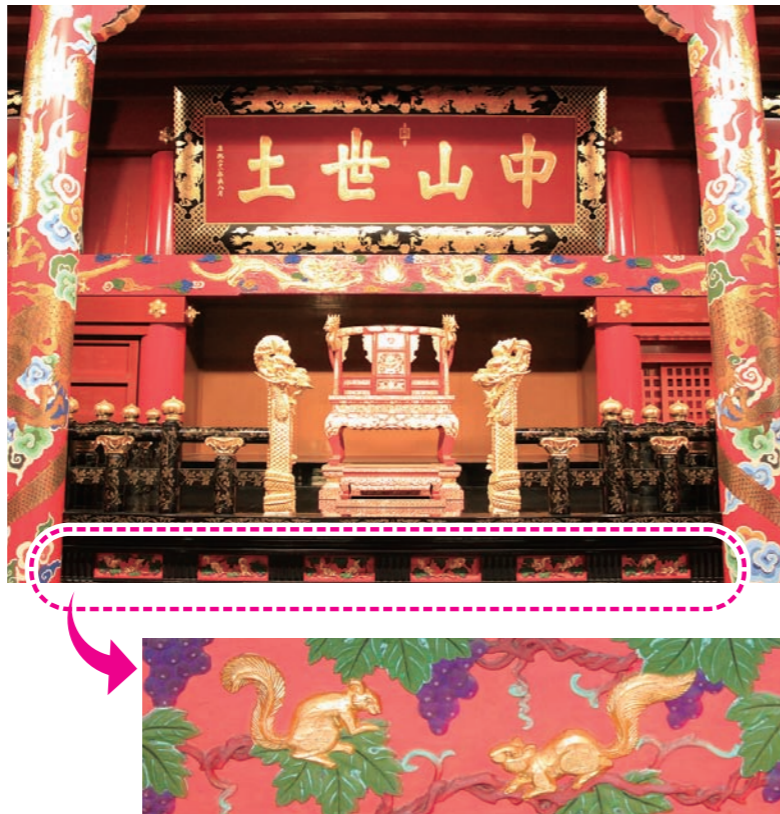
実はブドウとリスの模様は、遠く中央アジアからシルクロードを経て、琉球にも取り入れられたと考えられています。ブドウは、大きな実が房になっていくつも実をつけ、リスはたくさん子どもを産むということから、ブドウやリスは、

豊かさや子孫繁栄の象徴と考えられています。ブドウとリスのデザインは、首里城正殿だけではなく、琉球漆器の模様にも多く使われています。

見たことも無い可愛らしい動物や、キレイな植物を王様の玉座の模様にするなんて古の琉球の人々は、ロマンチストだったのかもしれないね。王様の玉座のブドウとリス、その他にも獅子や龍・牡丹の花など首里城正殿には、色々な植物や生き物が描かれています。次回正殿を見学した時に探してみてくださいいかがでしょうか。

(幸喜 淳)

首里城正殿二階の中央部にある王様の玉座の下には栗鼠と葡萄が描かれている



葡萄と栗鼠の絵柄は、琉球漆器の模様として多く使われている



黒漆葡萄栗鼠沈金八角食籠 (くろうるしぶどうりすちんきんはっかくじきろう)

財団らしい オリジナリティを発揮して より魅力ある施設運営を



ナイトハイク:夕食後のナイトハイク。整備された遊歩道だけでなく、自然の登山道のような道も歩く。ホテルなどを観察しながら、昼間とは全く異なる自然の表情を体験できる。暗闇に目が慣れると、普段いかに明るい人工の光に囲まれて暮らしているかを実感

県内外からの参加者でにぎわう 春の親子キャンプを取材

2013年4月から、沖縄美ら島財団が指定管理者となった沖縄県立名護青少年の家。

「今年から利用者の年齢を問わず、幼児から老年まで県民誰もが利用できることになりました。従来は学校などの団体向けの研修施設というイメージが強かったんですが、家族単位での利用も可能になったので、家族会員制度を準備中です」

と語るのは、県立名護青少年の家の照屋厚所長。そこで今回は、「親子ふれあいスプリングキャンプ」を取材した。

指定管理者が変わったからといって、急に運営内容が変わるわけではない。アウトドア活動についての専門知識があり、青少年の家のフィールドを知り尽くした従来のスタッフは継続雇用し、財団職員との協力のもと、プログラムを実施している。女子限定のキャンプや自然観察などさまざまなメニューがある中、特に親子キャンプは人気だという。

「募集を開始してから2時間で定員いっぱいになりました。今回は

ダッチオープンを使って初歩的な料理をする、ナイトハイクをするなど、キャンプの面白さのサワリの部分盛り込みました」

とは、職員の宮里大悟さん。公共の研修施設は施設・設備が充実しているため、民間のキャンプ施設に比べて手軽に、そしてリーズナブルな値段で事業が開催できる。また、専門家が指導してくれるのも、アウトドア初心者への親には安心材料となる。

照屋所長は言う。

「今の子どもは、昔の子どものように海、山川に遊びに行きません。自然を体験させよう」と意識している保護者がいないと、どうしても体験不足になる。経験をした子どもは、自信を持った行動ができるようになります。これからは親子で自然を体験できるプログラムは積極的に実施したいですね」

県内に6カ所ある青少年の家では、さまざまなプログラムが実施されている。それには、県が「目的をもってこれをやってほしい」と大まかな内容を指定する「主催事業」と、指定管理者がその持ち味を発揮して実施する「自主事業」がある。

個人客やシニアなど 利用者層の拡大を考えたい

照屋所長によると、

「これまで、名護にありながら北部の利用者が少ないことが課題でした。そこで地域の老人会、こども会、社会福祉協議会、校長会などに参加を呼びかけて運営協議会を発足させ、地域のニーズをふまえながら自主事業の内容を見直したいと思っています。また、

近くに名桜大学、沖縄科学技術大学院大学、国立沖縄工業高等専門学校がありますから、こうした教育機関との連携も進めたいですね」



親子キャンプでは家族単位でテントに宿泊。子どもたちのテンションも上がる!

木の摩擦音を利用して鳥の鳴き声そっくりの音を出すバードコールを作るクラフト教室の様子と完成品を持つ子どもたち



①かまどの作り方・使い方をレクチャーされた後で夕食の調理をスタート/②みんな真剣な表情で包丁を握る/③火おこしはオトコの仕事!?/④配膳も班ごとにみんなで協力して!ヤケドしないように気をつけて!/⑤今日のメインディッシュは鶏肉の丸ごとロースト!ダッチオープンで簡単に調理できる



2001年、国立天文台が石垣島に電波望遠鏡「VERA(ベラ)」を建設するのを機に、石垣島へ来ることになった宮地さん。2006年に完成した石垣島天文台の責任者として、地域にひらかれた天文台を目指し、ユニークな活動を展開している。2011年、海洋文化館のプラネタリウムのリニューアル時には監修を担当。沖縄の「星文化」に根ざした番組などをプロデュースした。今回は沖縄の星空と「星文化」の魅力、プラネタリウムの星座解説番組「沖縄ぬめら星」の背景などを聞いてみた。



国立天文台
石垣島天文台
所長 宮地 竹史 みやじ たけし

た(笑)。八重山は、本当に星がキレイ

です。星にまつわる民話が生まれたことが実感できます。僕は、海と星で沖縄を売り出せばいいと思っているんですよ。それで2002年の8月に、旧暦の七夕の夜に星を見ようという『南の島の星まつり』を開催したんです。天体望遠鏡を何台か用意して、1時間だけ会場周辺をライトダウンして

リニューアルオープンした海洋文化館プラネタリウムホール。水族館だけ見て帰るのはもったいない!

星を見ようという趣旨でした。開催してみたら予想を上回る人出で、1000部用意した星空図鑑はすぐになくなり、2000部用意したVERAのパンフレットまで品切れになった。今では日本最大の星イベントに成長しています。最初は『星を観光資源に』と言ってもあまり理解されなかつたけれど、今は旅行業も追いついてきた感がありますね(笑)」。

「それだけ盛り上がると、今度は星が見える天文台が欲しいですね。」

宮地「石垣市長などが、あちこちに陳情したり、星まつりでボランティアスタッフをやってくれた高校生たちが署名活動までしてくれて、石垣島天文台ができることになりました。実は石垣島天文台は、国立天文台、石垣市、石垣市教育委員会、NPO法人八重山星の会、沖縄県立石垣青少年の家、琉球大学の6者の連携で運営されている新しいタイプの天文台なん

ですよ。市街地からクルマで約20分だから、気軽に来られます。九州・沖縄地区で最大の口径105センチの反射式望遠鏡「むりかぶし」を、一般にも公開しているんですよ。夏休みなどは予約が多くて、お断りするのが心苦しい状態です。2013年の6月には200インチのフルハイビジョンスクリーンで立体的に宇宙を学べる「星空学びの部屋」も完成して、太陽系の生い立ちなども視覚的に学べるようになりました」

「沖縄の星空の魅力とは?」

宮地「沖縄県は、東京など本州から緯度にして10〜15度南にあります。本州では見られない南天の星が、ここで見られる。21個の一等星がすべて見られます。梅雨があけたら天気も比較的安定していますから、夏の星座がずっと見えるのも大きいですね。本州だとはいいかない。また、沖縄には独自の星の文化があって、星と自然と人間とのつながりが学べる。民話もそうですが、八重山には星見石というものがあって、古くからむりかぶし(すばる)を指す島言葉の位置を観測して種まきや収穫の時期を調べていたことがわかっています。星にかかわる民話や古謡も数多く残っているのも魅力ですね」

「海洋文化館のプラネタリウムも、そうした沖縄の「星文化」に根ざした内容になりましたね。リニューアル後は入場者が倍増しています。」

宮地「むりかぶし、ばいかぶし、にぬふあぶしなど、沖縄には独特の星の呼び名があります。水平線に横たわる天の川を見ると、星の子どもたちが天に帰っていくという星砂の民話も実感できますよね。そこで、春夏秋冬

4パターン、沖縄独特の番組を作るよう提案しました。実は海と星空は密接な関係があります。満月とサンゴの産卵もそうですし、昔の人は星空を見て方向を知り航海をしています。海洋文化館は、沖縄を中心とした太平洋や東南アジアの海洋文化を学べて、1日滞在型で遊べる施設であるべきだと思いますよ」

「展示ホールも、もうすぐリニューアル

天体望遠鏡:脚の部分の黄色は、琉球の王族だけに着用が許されたロイヤルカラーにちなんで。「王様が中国皇帝の使者・冊封使を迎えるように、私たちもお星様とお客様をお迎えしたいという意味です。足元には署名活動してくれた高校生たちへの気持ちから、八重山高校美術部に八重山の伝統織物であるミンサー織りの模様を描いてもらいました」と宮地さん



アルオープンです。」

宮地「楽しみですね。昼間の海も、夜の星空も美しい沖縄というのを、もっと知ってほしいですね。星と生き物との関わりを学ぶと、自然を守る機運も生まれます。海洋文化館のプラネタリウムと天文台との連携を密にして、特色を生かしお互い盛り上がるようにできたらいいですね」



大木
沖繩の

<和名>
サガリバナ
<科名>
サガリバナ科
(学名: Barringtonia racemosa)
Vol.20



開花時の様子
(提供:西原町役場)

サガリバナはサガリバナ科の常緑小高木で、琉球列島をはじめ奄美大島以南の台湾、中国南部、インド、マレーシア、ポリネシアにかけて分布しています。海岸付近の低湿地、マングローブ背後の湿地または内陸の河川沿い湿地に生育します。開花期は6月から7月の夜間で、花色は白または淡紅色、葉の腋から伸びた花序は直径5cm、長さ50cmの穂状で樹冠一面に垂れ下がります。花には甘い香りがあり、満開の時期にはその花姿と相まって周辺は神秘的な雰囲気になります。花は朝には落ちてしましますが、散った花も幻想的です。果実は長さ約7cmの角張った長楕円形で、軽い繊維質の外皮を持ち、水に浮いて運ばれ繁殖します。

沖縄県西原町のサガリバナは、御神殿内に植えられ「内間御殿(うどうん)のサワフジ」と呼ばれています。推定樹齢約470年、樹高6m、地際部周囲では210cm、地上から約70cmのところ幹が2つに分かれ、それぞれの胸高周囲は120cmと110cm、県内のサガリバナの中では最大級で、昭和15年12月26日に西原町の天然記念物に指定されています(西原町教育委員会)。

つばみから白い綿毛のような花を咲かせ、その形状が鳩目銭(琉球王朝期に流通した小銭)をぶらさげているのに似ていることから、地元では「ジンカキギー」(お金を掛けた木)とも呼ばれ親しまれています。開花期間中には、このサガリバナをライトアップし、周囲ではエイサーなどのイベントが開催されています。古くから地元で親しまれてきたサガリバナは、今では地域振興の役割も果たす町のシンボルとして大事にされています。(久高弘輝)



「ジャングル体験 in熱帯ドリームセンター」を開催!!

海洋博公園の熱帯ドリームセンターは、ランや熱帯・亜熱帯の美しい花、珍しい植物を展示している熱帯植物ミュージアムです。夏には「ジャングル体験in熱帯ドリームセンター」を開催し、親子やカップルにも楽しんでもらえるイベントが盛り沢山です。沖縄美ら海水族館から園内遊覧車ですぐの熱帯ドリームセンターで、いつもとは違う夏の体験をお楽しみください。

なりきり! 熱帯体験!!

縁起の良い熱帯植物のお守り作りを体験! 子宝や、安産のお守り等を作ってみませんか? 熱帯地域の仮面作りでは作成したお面や葉っぱの衣装を着て、まるでジャングルにいるような気分で作成記念写真が撮れます。大人も子供も楽しめるイベントです。



【期日】平成25年7月12日(金)~9月1日(日)の金・土・日

ちびっこバス乗り探検隊

サファリウェアを着てバスに乗ろう! ジャングルを探検しているような気分で作成記念写真が撮れます。スタッフが撮った写真は無料でプレゼント。また、待ち時間に楽しめる投げ輪や射的コーナー等もあり、親子で楽しめるおすすめイベントです!



【期日】平成25年7月13日(土)~9月1日(日)の土・日

恐怖の熱帯植物展

虫、動物、人がかなわない!? 虫を食べる植物、棘で身を守る植物、危険な植物の恐怖、本当は怖い! 植物の意外な一面を紹介します。また、夏休みの自由研究に最適な体験コーナーでは食虫植物の消化のしくみ等が楽しく学べます。子供から大人まで楽しめるイベントです。



【期日】平成25年7月19日(金)~9月1日(日)の毎日

他にも沖縄のカブトムシ・クワガタムシの教室、熱帯果実・スイーツのイベントも予定しています。詳細はHPでご確認ください。

【HP】<http://oki-park.jp/> から熱帯ドリームセンターのページへ

【お問い合わせ先】海洋博公園 熱帯ドリームセンター ☎0980-48-3624

海洋博公園のビッグイベント

海洋博公園サマーフェスティバル2013

海洋博公園で沖縄の夏を満喫しよう!
人気アーティストによるサンセットコンサートや
総数約1万発の花火を家族みんなで楽しもう!!

【日時】平成25年7月13日(土)

【場所】海洋博公園エメラルドビーチ 【料金】無料



八神純子

河村隆一

首里城公園のビッグイベント

中秋の宴

かつて、中国皇帝の使者「冊封使(さっぽうし)」をもてなした冊封七宴のひとつ「中秋の宴」を再現。



【日時】平成25年9月21日(土)・22日(日)(予定)

【場所】首里城公園御庭特設ステージ 【料金】無料

首里城祭

伝統芸能、冊封使行列・冊封儀式を首里城公園にて行い、豪華絢爛な一大絵巻を那覇市国際通りにて行います。



【日時】平成25年10月25日(金)~11月3日(日)(予定)

【場所】首里城公園・那覇市国際通り 【料金】一部有料

「JT B 大海洋号」実施中!!!

海洋博公園の魅力により多くのお客様に伝えるため、JT Bの企画旅行商品内で講演会・熱帯ドリームセンター・沖縄美ら海水族館の見学をセットにしたツアーの開発を行っております。本ツアーでは、お客様に各施設の見どころ、サメの話や深海魚・サンゴの生態等の飼育生物、オオオニバスや『星の王子様』に登場するバオバブの木等の珍しい植物についての講演を美ら島研究センターにて聴講頂いた後、各施設見学へと誘導することにより一層海洋博公園を楽しんで頂ける内容となっております。さらに、熱帯ドリームセンターでは、フラワーガイドによる館内案内・トロピカルドリンクのサービスを提供し、お客様から好評を得ています。今後もお客様の満足度向上、来園に繋がる独自の商品開発を目指してまいります。



熱帯ドリームセンター案内風景

講演会風景

台湾で世界熱帯種子展を共催

当財団は、台湾の台北花博公園で開催されている世界熱帯種子展を共催しています。

世界熱帯種子展は、有用植物資源の保存および種子の多様性の紹介を目的に、世界各地から集まった約200種300点の熱帯植物の種子を展示しています。当財団は、長年にわたる熱帯・亜熱帯植物の調査研究や普及啓発活動を通して保有している熱帯植物種子のコレクションから、世界最大の種子である「フタゴヤシ」や、種子が基盤の脚に似る「ゴバンノアシ」など88種の種子を世界熱帯種子展に出展しています。台湾にお出かけの際はぜひ足を運んでいただければと思います。

●期間: 平成25年6月1日(土)~12月29日(日)

●場所: 台北花博公園 新生園区未来館



当財団子会社の株式会社グリーンウインドでは、観光客の皆様方に歓迎の気持ちを表すアイテムとして「ウェルカムピック」を開発しました。沖縄の主要花卉であるラン(デンファレ)を添えた愛らしいペンダントタイプの商品です。6月1日にソラシドエアの神戸⇄沖縄便就航のセレモニーでも乗客全員にプレゼントされ、文字どおり華を添えました。今後も「めんそーれ沖縄県民運動」展開の一貫として、沖縄のホスピタリティを表現するものとして、空港や県外キャンペーンでの活用を場を広げていく予定です。



ランを中央に添えたウェルカムピック



ソラシドエア 就航記念セレモニーでプレゼントされました

「黒潮の海」大水槽にイルカがデビュー



このたび沖縄美ら海水族館の「黒潮の海」大水槽にイルカが仲間入りをしました。今回仲間入りしたイルカは、マダライルカと呼ばれる体長が1.6~2.5m位の小型のイルカの仲間、世界中の熱帯海域に広く分布している種類です。沖縄周辺海域にはマダライルカをはじめ、オキゴンドウやバンドウイルカなど約30種類のクジラの仲間が分布しているのは回遊しています。イルカといえば見た目から魚の仲間と思われる方も多いかと思いますが、実はクジラの仲間、私たちと同じ哺乳類です。肺で呼吸をし、体温を維持し、赤ちゃんを産み、お母さんはオッパイで子育てを行います。沖縄の海には魚類をはじめウミガメや

クジラの仲間の海生哺乳類まで多種多様な生物が存在しています。この豊かな沖縄の海の再現、また、魚類とクジラの仲間の関わりなど、調査研究を目的にこのたびイルカの展示に挑戦しています。現在イルカたちの体重は60kg~70kgですが、一日に食べる餌はサバやシシャモなど5kg~6kgと、人間に比べるとかなりの大食いです。これは低い水温の中で高い体温を維持するのに必要なエネルギーを得るためです。水槽では、小魚を追いかけて、ジンベエザメの前を泳いだり、イルカショーとは違う自然なイルカの動きをご覧いただけます。